



新潟県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

『つなぐ』

加茂市立葵中学校 三年 朝日 誠大

あさひ まさひろ

「助け合い」とは何だろう。困っている人に手を差し伸べることだろうか。仲間と一緒に協力して活動することだろうか。もちろん、これらも立派な助け合いだ。しかし、私は税について調べ、目には見えない助け合いも存在していることを知り、自分を含む多くの人が救われていることに気付かされた。

昨年の十月、私は朝起きたら突然、強い腹痛に襲われた。動くのも辛いくらいの激痛ですぐに近くの病院を受診したところ、胃潰瘍だと診断されたが、その病院には小児外科の先生がいなかったため、遠くの大きな病院へ救急車で搬送されることになった。この時すでに私は、痛みが限界に達しており、病院に着くまでに手遅れになってしまいうのではないかと、パニックになった。しかし、救急車はあつという間に病院に到着し、私は治療を受けられた。入院して一週間で容態は回復し、私は無事に退院することができた。あの時も、救急車で運べてもらえていなかったら、私はどうなっていたのだろうかと思像するとゾットする。私は見えない誰かが納めた税金のおかげで、病院に搬送してもらい、治療を受けることができたのだ。それまで子どもの私に税金などさほど関係ないと思っていた自分が情けなくなり、税のありがたみに衝撃を受け、もっと税のことを知りたくなった。

私達人間は、一人で生きていくことは、不可能だ。人と人の直接の助け合いや、税による見えない助け合いのもとで生きている。特に後者の税による助け合いは、直接目に見えないから助けているという感覚を実感しにくいかもしれない。しかし、今この瞬間もあなたの納めた税が、誰かの助けとなっている。災害復旧や農林水産業の振興など近年の社会問題を解決することにも税金は使われている。税のことを調べていくうちに私は、税金を納めることは、相手や周りを思いやることにも通じているのではないかと思うようになった。

税の歴史は古く、飛鳥時代には、租・調・庸という税の仕組みがあったことを社会科の授業で学んだ。これらの目的は、国家運営に必要な財源確保で、食糧や公共事業に使われていた。このことを知った時、私は、税の歴史の深さに驚き、税を通じた助け合いの精神が、千三百年前からずっと受け継がれていることに感銘を受け、これからも大切にしていかなければいけない、という使命を感じた。

税という助け合いのネットワークは、私達を守り、生活を豊かにしている。それと同時に、私達には税を守っていく使命があるのだ。だから私は、税に関心を持ち続け、将来、社会の一員として助け合いの輪を守る納税者になりたい。そして、税の大切さや助け合いの精神を、次のように語り継いでいきたい。

私達は税を通じて助け合うことで、

生命をつなぐ。

歴史をつなぐ。

幸せをつなぐ。

